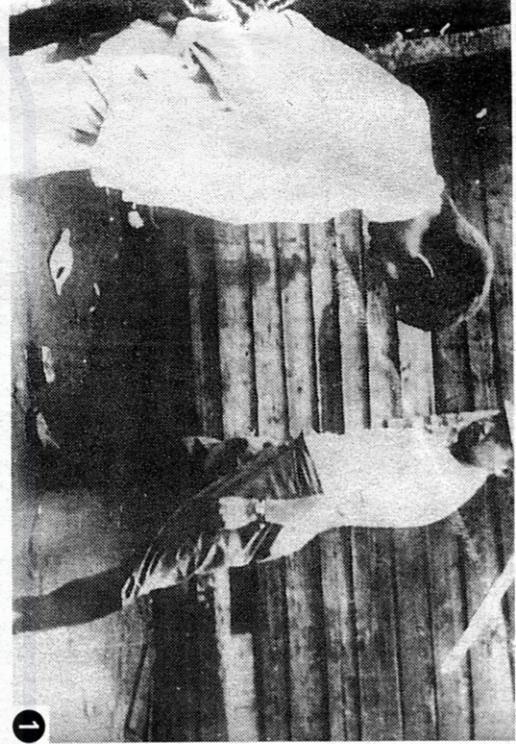
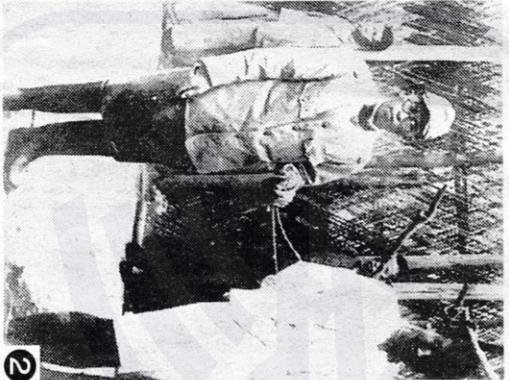


# 同じ登場人物 やらせ撮影

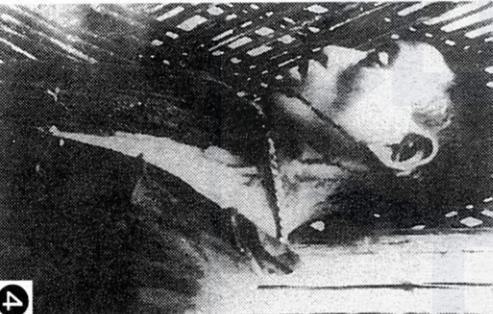


1



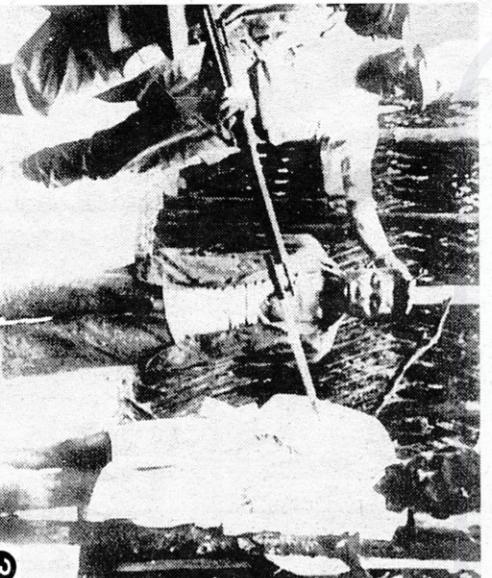
2

問題の写真は、中国人を柱に縛り付け銃剣を突き付けたり、首を出した農民に刀を振りかざした光景などを写した四枚。いずれも「日本軍が中国の市民を捕まえ刺殺の練習台に使い惨殺した」と、南京虐殺の証拠として掲載されている。四枚を並べると写真①で刀を振りかざしている男性は写真③の左から三番目と同じ人物。①で切り付けられている男性はメガネを掛けている。セロの伝記で、日本軍がシガポールで行



4

たざされる「憲兵隊の資行」として使われていることも分かった。調査を行った自由主義史観研究会に設置されたプロパガンダ写真研究会では「ヤン女史の著書には史実のわい曲や誤りが多数指摘されているが、この四枚の写真は同じ場所、同じ人物を入れ代わり立ち代わり



3

登壇させる形で、意図的に撮影された反目的のやらせ写真」と批判、今後日本軍がシガポールで行

## 都内で反論集会「反目的に入れ代わり」自由主義史観研「反目的」…追及へ

中国系アメリカ人、アリス・チャン女史が出したアメリカのベストセラー「レイプ・オブラ・南京」に反論する集会「南京大虐殺はなかった」がアリス・チャンレイプ・オブラ・南京ははかに歴史を偽造したか」(主催・自由主義史観研究会、会長・藤岡信勝東大教授)が十六日、都内で開かれた。集会では同書の史実のわい曲や誤りが多数指摘され、同タイトルの写真集「レイプ・オブラ・南京」(史談社)に使われた四枚の虚構写真について、同じ登場人物が入れ代わり立ち代わり撮影された、やらせ写真であることが、新たに明らかになった。

自由主義史観研「反目的」…追及へ